

平成23年度
(2011年度)

研究報告書

はじめに

- I やってみよう！ICTを活用した授業
ーもうここまで来ている情報教育ー

情報教育・ICT活用研究グループ

- II わり算につまずいている子どもをどのように支援するか

発達理解研究グループ

- III 担任が行う小学校英語活動授業の研究

ーコミュニケーション能力の素地を養う、楽しい英語活動ー

小学校英語研究グループ

- IV 「理科はやっぱり観察・実験！」

ーわかりやすい授業づくりをー

理科教育研究グループ

- V 子ども支援のあり方を考える

子ども支援研究グループ

- VI 不登校児童・生徒支援事業について

- VII 資料 センターだより特別号(XI)

平成24年3月
(2012年)

吹田市立教育センター

—表紙題字—

神山 成 氏（元 吹田市立山田第三小学校 校長）

はじめに

吹田市立教育センターは、昭和32年に教育研究所として発足し、昭和62年に現在の地に教育センターとして設置され、半世紀を越える歴史を刻みながら本市の学校教育の向上を図るため様々な支援を行っています。

具体には、「研究」から「教育相談」、「教職員研修」、「学校教育情報通信ネットワーク構築・情報教育」と事業が広がり、研究グループによる吹田市の課題解決に向けた調査研究、研修による教職員の資質向上と学校力向上の支援、専門性を生かした教育相談や特別支援教育の充実に向けた支援、ICT環境整備や教育の情報化の支援等の取組を進めています。

21世紀になり10年が過ぎた今日の社会は、グローバル化における協力と競争、地球規模での環境問題、少子高齢化等の課題を抱えていますが、教育をめぐっても、確かな学力の育成、自立心や学ぶ意欲の低下、保護者ニーズの多様化、安心・安全への不安、人間関係の希薄化への対応や社会全体で取り組む教育の必要性といった課題が生じています。

本市教育委員会では、こうした課題に対応し、これまでの成果を踏まえながら吹田の教育施策を効果的に実施していくために「わが都市(まち)すいたの教育ビジョン」(平成22年3月)を策定し、今後10年間の教育の基本方向を示しました。

教育センターにおいても、活力と笑顔に満ちた学校・園づくりが進められるよう、課題に的確に応えられる支援体制の充実とそれらを有機的に連携させていく工夫が必要であり、その支えとなる「教育課題の調査研究」の推進とその成果の蓄積・発信が重要であると考えています。

本年度、この調査研究では、わり算における子ども達のみずきを分析し、それぞれの誤りに応じた支援方法を研究した「発達理解」、授業を通しての情報モラル教育を中心に研究を進めた「情報教育・ICT活用」、担任が行う授業でコミュニケーション力を育成する工夫を研究した「小学校英語活動」、わかりやすい授業づくりに向けて実験・観察の様々な提案を行う「理科教育」、子どもや学校を取り巻く課題に対する様々な支援方法を学校としてどのように活用していくのかを研究する「子ども支援」の研究グループで5つの調査研究に取り組み、それぞれの研究成果を平成23年度(2011年度)の紀要106号『研究報告書』としてまとめました。

これらの研究成果を、確かな学力の定着や子ども理解等、学校教育における様々な課題の解決に向けた取組や、各学校・園の教育活動や実践の参考としてご活用いただけたら幸いです。

結びに、本年度の「教育課題の調査研究」の推進にあたり、多くのご示唆やご助言をいただいたスーパーバイザーの先生方をはじめ、ご理解ご協力いただいた学校・園の関係者の皆さま、そして研究員として委嘱させていただいた教職員の皆さまにお礼を申し上げます。

平成24年(2012年)3月

吹田市立教育センター
所長 廣嶋 豊子

紀要 106 号
平成 23 年度 研究報告書
(2011 年度)

印刷発行 平成 24 年 3 月
(2012 年)

発行人 所長 廣嶋 豊子

発行所 吹田市立教育センター
吹田市出口町 2 - 1

電話 (06) 6388-1455

F A X (06) 6337-5412

E-Mail: s-educ@suita.ed.jp